

幼童教育と童謡 (5)

葛原 幽

F. 歌はせない童謡の活用

○
一つ楽器によらず、また、楽譜によらずして、思ひ思ひの聲で、大きな聲で、おのづからなるリズムのまゝに、時に一人一人、時に、多勢一緒に聲を合せて、反誦させる事に、童謡が、はたらきます。

殊に、既述の、何の一篇でも、實は、意外に誤られ易い點もありますので、その材料として、幼児の心を練る上に、役立つと思ふのですが、茲には、一つの例として、舊作ですが、「ニコく〜ピンく〜の歌」を提供しました。これは、ほんこの幼児には、むづかしいのですが、

第一番は、「お日様」であり

第二番は、「風」です、

ニコく〜ピンく〜の歌

弘田龍太郎氏曲

お日が照る照る 町に照る

野に照る海に 山に照る

草木に 小鳥に ぎら〜こ

大人に 子供に お日が照る

お日が照らうこ 照るまいこ

明るひ顔で 歌つてる

それく〜 ニコく〜 ピンく〜よ

ニコく〜 ピンく〜 ニコピンピン

風が吹く吹く 町に吹く

野に吹く海に 山に吹く

草木に 小鳥に そよ〜こ

大人に子供に 風が吹く

風が吹かうこ 吹くまいこ

手足を上げて 踊つてる

それく ニコく ビンくよ

ニコく ビンく

ニコピンピン

ミ聲を、張り上げる事が出来るので誠に天下泰平です。

これは、幼児でなくても、大きい子供、また、實は、大人にきつても、よい練習になりますので、

お日が 照る照る □に照る

□に照る □に □に照る

□□に □□に ○○く

□□に □□に お日が照る

お日が照らうき 照るまいき

□るに□で □つてる

ミやうに、伏せ字にして、埋めてみる事が、よい練習になるのです。

○

次の『かけつくら』は、テニヲハの用法が十五種以上もあつて、その用ひ方によつて、三の子供のメンタルテストも出来るので、先年の保育協會席上でも提示した童謡ですが、

風

葉つば

子供

この三つの組合を、四つにして、四種の、かけつくらをさせるのです。

第一節は、風ミ葉つば、

第二節、葉つばミ 葉つば、

第三節、葉つばミ 子供、

第四節、子供ミ 子供、

なのですが、これを、出鱈目に、唯しやべつてるる、いきなり

風ミ 子供

が組合はされたりするので。

これも、次々に、反誦させて行く中に、きつミ二二の兒童が、それをして、皆を笑はせます、いえ、皆に、笑はれます。

更に、その時、次々に、忙しく、反誦させてゐます。

風ミ。 葉つば ミ。

になつたり、

風ミ。葉つばがx
になつたり、又、

風が葉つばと

風に葉つばが

風は葉つばと

風と葉つばの

その他、テニヲハが種々に變つてあらはれて、その兒童のメンタルテストを、求めないに、させてくれる事が、伴つてゐるのです。

かけつくら

風ミ 葉つばミ

かけつくら

葉つばミ 葉つばミ

かけつくら

葉つばミ 子供ミ

かけつくら

子供ミ 子供ミ

かけつくら

宮城道雄氏曲

〔「箏曲童話」第六集〕

○

猿蟹合戦は、近頃、あまりに慚酷だといふので、いろいろの非難も受けてをりますが、しかし、その發端の所は、誠に、うれしい友情もあらはれてゐるではありませんか。ほしいさいふものを、互に交換するのは、まじに、動物ながら、人情味豊かで、結構であります。その點だけを、こつて、童謡にしてみました。

柿の種ミ握り飯

宮城道雄氏曲

猿が 持つてる 柿の種

蟹が ほしいミ いひました

ほんきに〜 おいしさう

蟹が 持つてる 握り飯

猿が ほしいミ いひました

ほんきに〜 おいしさう

猿が もらつた 握り飯

蟹が 貰つた柿の種

こゝまで来て、

ほんきに〜 おいしさう

こいつたり、

ほんきに〜 おいしいな

こは、いはないで、

「ほんきに〜 有り難う」

としたのです。ところが、各節の第三行目でそんな批評や、感想は述べさせないで、こいふのが、小松氏の意見で、

柿の種ミ握り飯

小松耕輔氏曲

一、猿が 持つてる 柿の種

蟹が ほしいこ いひました

二、蟹が 持つてる 握り飯

猿が ほしいこ いひました

三、猿が もらつた 握り飯

蟹が もらつた 柿の種（「昭和少年唱歌」第一集）

とした発表もしました。しかし、宮城氏の方のを、こつ

て第一、第二節にも、

「ほんきに〜 おいしゅう」

こいひ、第三節には、

「ほんきに〜 有り難う」。

をつけたものを、反誦させてみます時、一人二人ミ進む中には、猿が、初から握り飯をもつて、蟹が初から柿の種を持つたりしまして、この童話の筋が、もつれてしまふのがあります。そこで、幼児を、豫め二組に分けておいて、次々に、反誦させて、誤つたものゝ数が、正しかつた者の數かを數へさせて、それも、赤球や、白球で、勝負を争はせる事も、附隨した興味を伴ひます。

更に、二つの場面の掲圖が、用意されてゐますミ、最もよい練習を進めさせてくれます。

○

漸層法は、修辭學からみても尊いのですが童話にも此の快味は格別であり、昔からの童謡にも、次から次へミ推移して果しがなくなつて、油をなめた犬を太鼓に張つて

デレスコ ドン ドン

スッテン ドン

ミ落してしまつた落語めくものさへあります。之は、その手法によつたものではありませんが、ある獨唱家が、ある

音楽會で、大きな聲で、よい聲で、よい節で、獨唱中に、

お父様 ではなかつたが、次は、

おぢい様 だか

ひいおぢい様 だか

分らなくなつて、心配して、歌ひそこねたさいふ逸話
が残つてしまいました。

お父様のお父様 お母様のお母様

梁田 貞氏曲

一、僕のお父様は お父様

お父様の お父様 は

おぢい様

おぢい様の お父様は

ひいおぢい様

ひいおぢい様の お父様は

何おぢい様

二、僕のお母様は お母様

お母様の お母様は

おばあ様

おばあ様の お母様は

ひいおばあ様

ひいおばあ様の お母様は

何おばあ様

(昭和幼年唱歌「第四集」)

第一節は、男のこゝ

第二節は、女のこゝ

即ち、第一節は

お父様こゝ

おぢい様こゝ

ひいおぢい様こゝ

ひいおぢい様のお父様

のこゝ。第二節は

お母様こゝ

おばあ様こゝ、

ひいおばあ様こゝ、

ひいおばあ様の お母様

のこゝなのです。

さて、之を、すらくゝ反誦する時、意外に混線しまし

て、みんな愛嬌を振りまく事が起ります。

歌はないで、反誦させて見る事によつて、その兒童に、

ぎれだけ、心のおちつきを見得るか否かを、見得る材料に

なるのでした。(昭和九、二二、三五)。